



吉村 忍 議員

小学校統廃合について

**問** 児童の減少が進み、単式学級のみの学校が3校、残りの7校が複式学級を有している現状の中、学校小規模化による影響を考え、児童の教育条件をより良くすることを目的とした小学校統廃合について所見を問う。

**答** これまでの学校統廃合は、保護者をはじめ地域住民の理解が得られた学校について行ってきた。このたび、油田小学校の保護者から森野小学校との統合要望があり、油田地区をはじめ関係する地域への説明会を含めた対応を行っている。

子ども達が変化の激しい社会に対応できる力を備えるような環境づくりが必要と考えている。

《小学校》

学校名	児童数 (令和元年12月1日現在)						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
久賀小	19	12	21	26	13	26	117
三蒲小	4	2	8	4	7	3	28
明新小	16	18	10	21	15	16	96
沖浦小	2	5	2	2	3	3	17
油田小	0	1	2	1	1	2	7
森野小	8	10	6	5	8	1	38
城山小	10	7	8	10	3	10	48
島中小	3	4	5	3	7	1	23
浮島小	1	0	2	0	3	1	7
安下庄小	8	5	12	10	14	8	57
計	71	64	76	82	74	71	438

る。子ども達が人生の土台をしっかりと養うことができるよう、町全体での学校設置の位置的バランスも考慮しつつ、学校規模の適正化を図りたいと考えている。

イノシシ対策について

**問** 現在の「農産物を守る」対策に加え、「町民の命・財産を守る」対策にも重点をおいた施策を講じるべきと考える。

町内では幸いにも現在のところ、人がイノシシに襲われた事例はないとのことだが、他県では民家の庭や玄関先でも人がイノシシに襲われ負傷した事例がある。耕作地以外についても人命を守る観点から鳥獣被害防止施設整備補助金の補助対象とすべきではないか。

**答** 近隣市町においても耕作地以外を補助対象としている自治体はなく、本町としても、今後も耕作地を守ることを主眼においた対策を講じたいと考えている。



イノシシと衝突した車両

**問** 道路上での車両とイノシシとの衝突事故が多発している。この責任の一端は道路へのイノシシの侵入防止対策を怠った町にもあると考える。道路上での衝突事故は他車をも巻き込んでの大惨事になる可能性もある。道路へのイノシシの侵入防止対策、衝突事故対策について町はどのように考えているか。

**答** この対策を講じる場合、交差点や進入路、駐車場等への取り扱い、多大な設置費用と維持管理費用がかさみ、実現は不可能と考えている。

**問** 町内の道路上で走行中の車両が落石と衝突し、車両が破損した事故において、過去には車両の修理費用を町が負担した事例はあるが、道路上でのイノシシとの衝突事故についても同様の措置をとるべきではないか。

**答** 昭和45年の最高裁判決の「高知落石事故」については、岩石が通行中の自動車を直撃した事例において、防護柵等の設置や事前の通行止めの措置を怠ったとして、道路管理者の瑕疵があると認められた事例はあるが、平成22年の最高裁判決の判例では、動物が道路に侵入し、これを避けようと車が分離帯に衝突し、運転者が死亡した事案では道路管理者の瑕疵は問われなかった。

町としては道路に「イノシシ注意」の標識を立てるなどとして、ドライバーに注意を促していきたいと思う。